

岐阜の博物館

編集 岐阜市岩戸花月町 2の1
 兼 濃飛甲冑研究所内
 発行 岐阜県博物館協会
 振替 名屋 28716



(高校生対象の天文教室で、熱心に指導に
 あたられる正村一忠さん)

館・園 紹介 No 7

岐阜天文台

岐阜県羽島郡柳津町高桑藤の木
 〒501-61, TEL 79-1353

男 “正村一忠” さんの執念実る!

「自由に利用できる観測施設がない。都会の空はスモッグでよごれ、星さえ満足に見えないとは、子どもたちがかわいそうである。たまには、大自然のふところに帰り、宇宙の神秘をさぐることも、人間生活にとっては大切なことである。……」少年時代から宇宙にとりつかれてじつに40年、現代の子どもらに星空の夢を与えてやろう……と、とうとう民間では最大の天文台をつくりあげられたその人、正村一忠さんをお訪ねしたのは、オープンして間もない三月の夕べでした。昼の仕事を終えられたばかりで、すぐ車で駆けつけられた正村さんは、一日の疲れも吹き飛ばして、高校生相手の第一回の天文教室へ……それで、ゆっくりお話を何う余

裕もありませんでした。「天文台を自分たちだけでつくること、これが少年時代からの夢でした。このような施設が各地にできれば、子どもたちの科学する心も、もっともっと大きくなるでしょう! その大きな体からあふれ出る、若さを忘れない熱血漢振りには、じつに頭が下がりました。

ガラス片にススをぬって日食を見た小学生時代のこと、そのささやかな幼い日の出来事が、正村さんの心を、大自然—宇宙の神秘のとりこにしてしまったのでした。小学六年生で、天文同好会会員、昭和15年20才の時には、岐阜市長森に観測所を自費でつくとともに、濃飛天文同志会を設立、戦争中も戦地で夜空を眺め続け、戦後は、新しく岐阜天文協会へ発展、本業の青果問屋業と天文学徒としての、苦難とともに、張りつめた二また人生航路が続いているのです。「何とかして、自分たちの力だけで天文台が作りたかった」正村会長を中心に、岐阜天文協会に所属のアマ天文学者たちは、苦節10年……資金集めに走り回った苦勞が実って、浄財7500万円、これに、正村さんからの敷地二千平方メートル(従業員寮建設予定地だった)の寄付を得て、待望の天文台が完成したのでした。「人類は月へ達しました。天文学も身近なものです。人類の幸福な未来は、天文・宇宙科学の正しい理解からくるのです。どんな人にも、自由に利用してもらおう生涯学習の場なんです」 けっしてはなやかではなかったこの人—正村一忠さんの人間ドラマは、今、岐阜天文台とともに、新たな序章を迎えたのです。すばらしい人間ドラマへと。(写真・文 小野木)

余暇利用に、天文台通いを

岐阜天文台観測主任 池谷 薫

岐阜天文台は、岐阜天文協会の会員が中心となり、多くの人々の御協力によって完成しました。国産最大の屈折望遠鏡をはじめ、10台余の小型望遠鏡、数千冊の天文関係図書、フィルム、美濃隕石をはじめ天文教具各種を備えつけた、我が国民間天文台としては第1位の規模のものであります。(公立・私立を含めては、国立東京天文台、京都大学天文台〔花山・飛驒〕について第3位であります。)

本台の目的は、アマチュア天文研究家の観測に供し、その成果を挙げることに、内外の天文学界に協力し、天文学の発展に寄与することにあります。それとともに、県内の天体観測施設設備のない学校にもその使用を許可し、また青少年、一般社会人にも宇宙に接する有益な場とチャンスを提供するものであります。

天文台は、人類の誕生とともに始まり、人類の歴史が存在し続ける限り、その前進発展を続ける人類生存に必要な不可欠のものであります。

岐阜天文台は、岐阜市、一宮市、羽島市、大垣市、四市のほぼ中心にあり、正確には、

東 経 136 度 42 分 28 秒

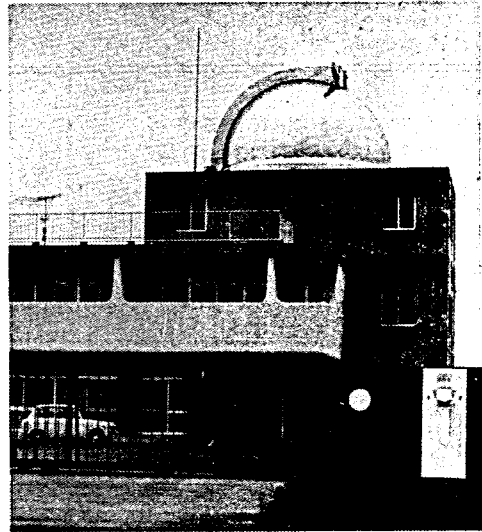
北 緯 35 度 21 分 23 秒

の地点にあります。

国道21号線、長良大橋より東を望めば、田圃の中に銀色のドームがキラキラと輝いて見えます。名鉄新岐阜バスターミナルより、岐阜バス、西部線、岐阜天文台行(高桑)が運行されています。また国鉄岐阜駅よりは、タクシーで約20分、新幹線岐阜羽島駅からは、タクシーで約10分(バスも1日3本、高桑岐阜天文台經由新岐阜行が運行されています)の、きわめて交通の便に恵まれた、しかも静かな田園地帯にあります。

施設としては、観測室(ドーム)露天観測場、写真処理室、準備室、資料室、図書室、研究室、宿泊室(和洋4室)浴室、食堂、厨房、洗面所、ロビー、展示室、講堂、機械室、事務室、応接室等があり、建て坪は延べ500平方メートル。泊まり込んでの観測にまで、こまかく気が配られています。

2月28日のオープン以来、既に10,000名



近い来台者があり、物を見せ、物を通しての実物教育の場として、大きな関心を寄せていただいております。

天文台の運営は、岐阜天文協会々員の会費、会員の利用負担金、寄付金および特別賛助会員の会費をもって賄われていますが、一般ならびに学生・学校等の見学、観望には無料で解放しております。しかし、専任台員は、予算の都合上一名しかおらず、他はすべて協会員有志の無料奉仕に依存している関係上、観測研究者の使用割振の調整もありますので、学校その他諸団体の御利用は、前もって日時、人員等、御連絡いただきたいと思います。

また個人の同好者に対しては、当分の間、毎月第二、第四土曜日の18時—21時、第二、第四日曜日の正午—16時までを無料開放の日としております。その他、特殊な天象のある日の行事は、予告して一般の観測に解放しております。

休台日は毎週木曜日、毎月三回学生対象の天文講座(小・中・高別)および適時観測講習会等の行事を催しております。天文協会の会報としては、メチタが月刊で発行されています。レジャー・レジャーで遊び回るだけでなく、前向きで健全な、天文台通いといった、余暇利用をおやりになりませんか。

県立博物館建設によせて

岐阜県社会教育課 後藤 勝

いわゆる置県百年を記念して、各県で博物館建設がすすめられている。置県の日に関館のもの、置県の日が建設着手のもの、さまざまであるが、いまの勢いでは、50年までには、かなりの県で県立博物館ができそうである。欧米の例を見ても、博物館建設には、波があったように、例えばアメリカのごときは、かのニューディールの時期に急速に進められ、それまで全国で600ぐらいであったのが、大小あわせて4000に近くなったという。わが国では、それほど爆発的ブームは期せられないが、やはりここ10年の間は、博物館史上に一時期を画しつつあるといってもよさそう。

さて本県も、この例にもれず、置県百年記念事業として建設準備をはじめることになったが、これに関係する一人として、いろいろ考え、感じているので、その一端を述べてみたい。

なんといっても、よく利用される博物館をつくりたいということである。利用度は、一応入館者数で示しうるが、欧米では、その博物館の所在する都市人口に等しい年間入館者があればよいとか。これでいえば、本県の場合は、40万人を越えなければならぬということになり、たいへんなことである。今までに調べた他県の例(県立博物館級)では、卒直に利用利用者数はさほど多いとはいえず、10万前後から20万程度である。

利用者の多少は、県立級では、県民の要求をどれだけ満足させるかによってきまらるだろう。そしてその要求も、職業・趣味・年齢等々によってさまざまであるから、基本的にどのような内容・レベルのものを構想するかが問題である。その意味で、先般国立歴史民俗資料館の基本構想委員会が出されたおまな意見の中に、「中学高校生にも理解できるようなもの」というのがあったが、県立級では特に考える必要があるように思う。

また県立級の場合、歴史博物館的なものも多く、へたをすると特色のない、平均的なものができるおそれもないといえない。そしてこれはある程度やむをえないとは思いますが、やはり、その県の博物館でなければ見られないようなものを、ぜひ収蔵したいものである。

特に民俗資料や伝統工芸に関する資料においては、そういう配慮が必要であろうし、その県の歴史の全体像を、どのようなテーマのもとに描き出すかなどによっても可能であると思う。

ともかく、人口20数万に一館というわが国の博物館を、数万に一館という普及率の先進国なみに、社会に定着させることは容易ではないが、うえに書いたようなことを念頭に置きながら、息の長い努力を、県民の方々の協力をえつつ、続けていかなければならないと思っている。

菊花石館

無料公開。即売も致します。

菊花石館長 白木孝一

白木良長外科 白木孝男

(外科・胃腸科・整形外科)

〒500 岐阜市長良福光中町2616

(長良橋北結50m)

図書紹介

- 1.日本の博物館総覧(1970年版) 700円
- 2.展示～その理論と方法～ 300円
- 3.博物館関係法令規則集 300円
- 4.博物館組織—その実際的アドバイス— 900円

以上は、日本博物館協会 〒110 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館内で扱っていますので御注文下さい。

また、日本博物館協会では、博物館学の専門雑誌「博物館研究」を発行しております。ぜひ購読されますようおすすめ致します。

こどものためのたのしい
こん虫生態展

名和昆虫博物館(岐阜公園内)では、学習指導要領の改訂にあわせ、理科教育振興のために、上記のような特別展を、去る四月十八日より、九月三十日まで開催しております。お出かけ下さって、得るところは学びとり、各館の参考にして下さい。

内藤記念くすり資料館オープン

エーザイ川島工場内(羽島郡川島町)に、内藤記念くすり資料館が完成し、6月12日に開館致しました。創業者内藤豊次氏の業績を記念し、六階建て合掌造りの記念館内の三階から五階までに、古い中国の医書、天平時代の薬ツボ、漢方医資料、それに郷土の植物学者、飯沼愨斎の著書「草木図説」その他薬草標本などが展示されています。ぜひご覧下さい。

岐阜県の博物館施設一覧表

(追加) 本誌7号

- A 24 片野記念館
安八郡輪之内町四郷(〒503-02)
TEL 62-4178
- D 13 石の博物館
大野郡丹生川村旗鉾(〒506-22)
TEL 057707 呼6

§事務局で、まだ把握できずに収録もれのものがありましたら、至急御知らせいただきたいと思ます

事務局より ★当協会の活動を盛んにするために、本年度は、県内博物館・類似施設めぐりを実施し、参加者を広く一般からも募集致します。見学の際には、どの館・園もよろしくお世話下さるよう、お願いしておきます。
★資金難の苦境にも負けず、本誌もタイプ印刷で続けてまいります。会費未納館園は至急送金下さい。振替名古屋 28716 です。

岐阜県文化財保護協会設立

急速に発展する現代社会の中において、自然や歴史的遺産が損壊し破却しつつある現状を思い、文化財に関する理解と認識を高め、郷土の文化財愛護に寄与することを目的に、県内の同好の志が集まり、文化財保護協会が設立されました。昭和46年度の事業計画として、会誌、「濃飛の文化財」の発行、文化財鑑賞及び研究会、講演会の開催、文化財保護団体等の助成、顕彰、文化財関係図書の刊行、幹旋などが挙げられています。広く会員を募り、よりよき協会を育て、郷土の文化の向上に資することを目差しておられますので、さそいあってご入会されるようおすすめ致します。会費は年額1,000円、申込先:岐阜県教育委員会 社会教育課 文化室気付、岐阜県文化財保護協会設立準備委員会宛です。

なお、同協会では、来る7月4日(日)に、新装オープンされた、高山民俗村の見学会を開催されます。現地集合、岐阜方面からの参加者は、8時55分発 のりくら1号に乗車のこと。詳細は、先述申込先まで問合わせて下さい。

第19回全国博物館大会

会期 昭和46年10月25日(月)~28日(木)
会場 横須賀市文化会館
横須賀市博物館

中心テーマ 公害問題(自然保護を含む)と博物館活動、家庭と博物館、生涯教育と博物館、青少年問題と博物館
参加申込 7月末日までに、日本博物館協会(問合せも上記へ、住所はP.3参照)
一日だけでも参加され、対外的にも目を向け、全国的な博物館活動の流れを受けとめて下さい。

編集後記 ◎5月におとどけすべき8号が、一ヶ月も遅れてしまいました。いつまで資金が続くやら、とても難産だったことは確かです。

◎県内各館園の横のつながりを確かなものにするため、ニュース記事を多くしていきたいと思います。次号は8月を予定しています。ささいなニュースでもお寄せ下さい。(Sab.)